

第4章 お兄ちゃんとミカ

ミカです。

友達のすずちゃんがお兄さんの自慰を覗き見してわかったこと。

1、包茎で早漏。

2、ありえないくらい絶倫。

すずちゃんがLINEグループにオチンチンの写メをあげたら、
友達のチカちゃんとナオちゃん…一応わたしも…オチンチンを予約することに…。

ちなみに二人は一足先に絶倫っぷりを体験。嘘じゃなかったみたいです。

でも、チカちゃんの中には出されて怒ってたし。

ナオちゃんはカレピと別れて付き合うことになった。

ちょっと意味がわからないです。

最後はわたしの番。

弟のオチンチンが一番なんですけどね…。

× × ×

(LINE 効果音)

【レモン：まさかーお兄ちゃんがナオを寝取るとか…】

【チカ：アニキさんヤベー】

【ナオ：ミカにも早くつばさのチンチン知ってほしー♥】

【ミカ：弟よりすごいとかありえませんがね】

【レモン：つばさ呼びにツッコみたい いいかげん弟も気になる！】

【チカ：ほんそれ】

【ナオ：みんなもつばさって呼んでいーよ♥】

【ミカ：待ち合わせはウチで。ピン送っておきます】

【レモン：りょ】

【ナオ：ガチ3Pきちゃー！】

【チカ：こっそり配信希望！】

【レモン：オチンチン比較したら教えて？】

× × ×

(ミカの家：ドアフォン／扉)

「お兄さん…今日はわざわざありがとうございます！」

よそ行きの笑顔でお出迎え。

ちなみにわたしは赤のジップパーカーにミニスカ。

四人の中で一番スリムなのは自覚してるんで露出は控え目。

大ききより感度だし、すぐ脱げるのもポイント。

お兄さんは白シャツに黒のスキニーパンツ。

清潔感あるコーデ。

緊張してるのか、少し挙動が不審です。

「すずちゃんに似てますね。特に目元…？」

はじめましてな気がしません」

はにかむお兄さん。

意外にキュートな笑顔。

「ナオちゃんをカレピから寝取ったお兄さん。

どうぞ上がってください (笑)。

両親は留守にしていますんでご心配なく。

月に一回は旅行いってるんですよ。仲良すぎ」

お兄さんの手を取ってリビングまでエスコート。

十畳のリビングにはふわふわのラグにローテーブル。

「適当に座っててください。

飲み物持ってきます」

わたしはキッチンに向かうと、(足音)

冷蔵庫に用意しておいた冷水筒を取り出し、(ガチャ)

グラスと一緒に持ってきます。(足音)

「最近ハマってリピってるフレーバーウォーターです」

(置く × 2)

ローテーブルの上に置いてから対面に座ります。

(座る／注ぐ × 2)

「どうぞ！
失礼してわたしも…。
実は緊張して…喉カラカラ。

(ゴクゴク)

…美味しい？
よかったです。
お代わりあるので遠慮なくいってください。

(ゆっくり：コク)

ところで…お兄さん。
すずちゃんからわたしのこと…どう聞いてます？」

お兄さんは空っぽになったグラスを握りしめたまま、目を泳がせます。

「…弟とオチンチンを比べたい？」

んふふ。当たり前です♪
だって、お兄さんの包茎オチンチンが弟のズルむけオチンチンよりすごいわけじゃない
ですか。
スゴイとウワサの射精回数も…睾丸がバグッただけでは？
なのにチカちゃんとなオちゃんの二人ときたら…すぐに夢中になっちゃって…。
浅はか…軽率…尻軽っ」

ポカンと見つめるお兄さんにグラスを置いて熱弁。

「オチンチンは弟のオチンチンがナンバーワン。男性としても弟がベストワンです。
偏見と私見に満ちてますが、異議は一切受け付けません。
(愛おしそうに) アキくんもそう思うよね？」

グラスをギュッと両手のひらで握ると、左隣を見つめます。

「紹介が遅れましたっ。
隣にいるのが…ひとつ下の弟…アキくんです♪

さっきはお兄さんが、すずちゃんに似てるって言ったと思いますが、
わたしたちも似てるんですよ！

隣に並べば、まるで双子♪
違うのは…ついてるかついてないか… (笑)。

あれ…。
お兄さん…？　すごい顔。
もしかして…似すぎて驚いちゃいました？

アキくん。
こちら、友達のすずちゃんのお兄さん。
今日は例の件でお呼びしました。

あれあれ…。
お兄さん…？　もっとすごい顔」

わたしはすっと表情を消し、グラスから手を離します。

「気づいちゃいましたか。
よかった。話を合わせてきたら、どうしようって思っていました（冷笑）。

そもそも、わたしは一人っ子。
アキくんは…わたしだけの…エア弟です♥」

お兄さんはきょとん顔。

「エア彼氏とかイマジナリーフレンドとか知ってます？
それです。
三人にはナイショですよ？」

口に人差し指を当てながら真剣にお願い。
お兄さんは怖いものを見るような顔でコクリ。

「わたしの初恋は…父です。
割りとお話だと思えます。

(グラスを指で弾く)

問題は、その後。
好きになった異性がゼロってことです。ガチです。

おかわりどうぞ。(注ぐ)

例外はエア弟のアキくんだけ♥

(恥ずかしそうに)

でも…。

最近物足りない。

わたしにも性欲があるし…。

ナオちゃんみたく、エッチしてみたい！」

グラスを持って立ち上がる。

今日イチ、おもしろい顔になったお兄さんの右隣に座ります。

(座る)

「(ひとくち飲む：ゴクリ)

お兄さんのオチンチンがバズった時、ひらめいちゃいました。

もちろん、オチンチンを比べたいなんて…ウソ♥」

(グラスを置く)

耳元に顔を寄せ、囁きます。

「(囁き) お兄さんが…アキくん♥

みんなが夢中になったオチンチン。

ナオちゃんを寝取ったオチンチン。

(囁き) そんな強々 (つよつよ) オチンチン。

アキくんのオチンチンにピッタリ♥」

なぜか引き気味なお兄さん。

「お兄さんはなんもしなくていいです。

わたしが自己暗示を掛ける間、ちょっとだけ待っててください。

催眠得意系女子なんですすぐ済みます♥」

返事を待たず、目を閉じます。

「(浅く深呼吸) す～。は～。

(深呼吸) す～～。は～～。

(深く深呼吸) す～～～。は～～～。

(限界深呼吸) す～～～～。は～～～～。

(ゆっくり)

今から、十からゼロまでカウントダウンします。

ゼロで目を開いたら、お兄さんはアキくん。

今日一日、お兄さんはわたしが好きなアキくんです。

十、
九、
八、
七、
六、
五、
四、
三、
二、
一、
ゼロ」

目をゆっくり開きます。

「アキ…くん…？」

目の前にアキくんがいる♥

右からみても…。

左からみても…。

わたしの弟♥

わたしの大好きなアキくん♥」

びっくり顔のアキくんにテンション急上昇。大興奮。

「(興奮しつつ) 嬉しい嬉しい嬉しい♥」

嬉しすぎて勢いよくハグ。

良質タックル。アキくんごと横倒し。

(倒れる)

「アキくん♥ アキくん♥ アキくん♥ アキくん♥」

抱きついて離れない。

上になったまま胸に頭をぐりぐり。頬をすりすり。

「アキくん好き♥ だあい好き♥」

アキくんは顔を真っ赤にして、硬直。されるがまま。

「アキくん〜っ。

服っ。
似合ってるっ！
けどっ。
いらないよね??」

シャツを掴んで、くしくし引っ張る。

「わたしとアキくんの中に……………邪魔っ」

シャツのボタンを外しにかかる。

「(イライラしつつ) ちょ…。
手っ…震えて…外せないっ。
ボタンの…くせに…っ!!」

(ブチブチッ)

力づくでむしり取る。

「セクシー〜〜〜!!!」

はだけた上半身にうっとりしつつ、スキニーパンツに手をかける。

「下は、もっと邪魔っ！」
(ベルト：カチャカチャカチャ)

震える手はベルトをカチャカチャさせるだけ。

「(甘え声) アキくん…お願い〜〜〜い！」

おねだりされたアキくんは、とまどいしつつもベルトを外し、(カチャ) ついでとばかりにファスナーを下ろす。(下ろす)

「(興奮しつつ) きゃっ♥」

もっこりブリーフに目がハートマーク。

「アキくんのアキくん…っ♥」

さらにテンションアゲアゲ。
かぶりつくように凝視。

「すごい…テント…っ♥」

感心しながら、右手でテントをフェザータッチ。(SE)

「硬っ♥」

感動しながら、そのままテントを撫で回す。(SE)

「あったかい…♥」

興奮しながら、大胆にテントを撫で回す。(SE)

「えっ。

ビクってしてる♥

撫でてるだけなのに……敏感っ♥」

パンツ越しの反応が手のひらを伝い、股間の奥をキュッってさせる。

「はあ…っ♥

撫でてるだけで……おかしくなりそ…っ♥

ぬ、脱がせたい…。

(葛藤しつつ) けどっ。

近くで見たら……おかしくなる……自信ある…っ」

内ももをスリスリしてモジモジしながら、右手は止まらない。(SE)

「でもでも……っ。

生で…見たいっ。

触りたいっ嗅ぎたいっ舐めたいっ！ 挿れた〜〜〜いっ!!」

ガマンとリビドーがぶつかりあって、おかしくなる。

「はあ…♥」

胸を押さえて、改めてじっとテントを見つめる。

「はあ〜〜…あ♥」

次第に表情筋が緩んで、ウキウキウォッチング。

「ああん〜〜っ♥」

思わず軽く頭突き。

猫が甘えるように、そのままテントに頬をすりすり。(SE)

「アキくんのオチンチン (SE) ぬっくぬく♥」

おもむろに鼻を押し付け、思いっきり深呼吸。

「(鼻でゆっくり吸う) す~~~~♥

(口で吐く) は~~~~っ♥

あっ♥ ああ……♥」

深呼吸したのに苦しい。

「(鼻で味わうように吸う) す~~♥ (口で吐く) は~~っ♥

(鼻で味わうように吸う) す~~~~♥ (口で吐く) は~~~~っ♥

(鼻で味わうように吸う) す~~~~~♥ (口で吐く) は~~~~~っ♥

ダっ♥ ダメ……♥」

深呼吸するほどクラクラ。

「ああ、ムリ…っ！

ずっと、嗅げる…っ。嗅げるのに…っ。

くっ……苦しっ。

こんなの…初めて…っ」

赤くなった顔をぶんぶん頬ずり。

「あっ♥ あっ♥ ああっ♥」

次第に唇が当たって、擦るようにキス。

「(ちゅ♥) ンンっ。

(ちゅう♥) ン…。

(ちゅう♥) あ？

あっ！

キス…しちゃった…♥

(ちゅう♥) しちゃってる♥

(ちゅっ♥ んちゅ♥) ファースト・キス♥

(ちゅううう♥) しちゃった♥」

テントはあっという間に唾液まみれ。

カウパーも全開。内から外からべっちょべちょ。

オチンチンとアキくんの声がどンドンおつきくなる。
早漏オチンチンには効きすぎるペロキス愛撫。

「(ちゅうちゅううう♥ ンんっ♥)
アキくん。(れろれろ♥)
パンツ… (ちゅ♥) すっごおいパツツパツ…っ。(れろれろれろ♥)
痛くない？(れろんれろん♥)
わわっ。まだおつきく?!
(ちゅ) こんなの…絶対痛い…っ！」

心配すぎてペロキス愛撫をやめ、慌てて体を起こす。
ほぼイキかけてたオチンチンは急なおあずけをくらって、余計に怒髪天。

「(慌てる) オチンチンかわいそっ！ 今すぐ助けてあげる…っ!!」

アキくんのお尻を軽く浮かせ、スキニーパンツのウエストをがっちり掴む。
下着ごと、力いっぱい引き下ろす。

「えいつ!!」

(勢いよく脱衣)

脱衣の摩擦が限界オチンチンにクリティカル。

(1st 射精)

「(驚く) はあわっ?!」

ドピュ散らかしながらぶるるんっ。
ド派手に登場するオチンチンに目が点。

「ええっ！ アキくんッ?!」

踏んづけたホースみたいに白濁液を撒き散らす。

「び、びっくり…。
脱がせたらイツちゃうとか…。
まるですずちゃんのお兄さん」

精液を顔に服に腕に浴びまくって、何が起こったのかわからされる。

「(興奮しつつ) あっつ。

これが……アキくんの…リアル………精液♥」

顔に浴びた精液を両手でぬぐい、鼻を近づける。

「(鼻で嗅ぐ：すんすん)

い〜〜〜匂い♥

(舌で舐め取る：じゅるじゅる)

お〜〜〜いしっ (美味し) ♥

(舐め取りながら) これが……中で…出されたら……妊娠しちゃう……子種汁…♥」

あっという間にキレイになった手のひらを、残念そうに二度見。

ついでにアキくんの股間に物欲しげな視線を向ける。

「(困惑しつつ) ふあ…っ?!

一回出したのに…おやすみしてないっ!

え。

あ。

待って!

よく見たら…かぶってる。

大人オチンチンじゃない…っ。

…体調によって変わる? かぶってるほうが絶好調??

アキくんのこと全部知ってると思ってたけど…。

そうだったんだ…!」

キリッと自信満々で頷くアキくんにぐっとくる。

たまらず、キス。

「(興奮しつつ)

(ちゅ♥ ちゅっ♥ ちゅう♥ ちゅうっ♥)

止まんなあい♥

(ちゅうう♥ ちゅうう♥ ちゅちゅっちゅっちゅっ♥)

もっともっと、いっぱいする♥

(ちゅ♥ ちゅう♥ ちゅう♥ あむ♥ はあむ♥ れろお♥)」

ついばんだり、囓んだり、ひっばったり。いろんなキス。

「(ついばみキス：ちゅ♥ ちゅ♥ ちゅちゅ♥ ちゅちゅっちゅ♥)

(甘囓キス：はあむ♥ はむはむ♥ あむあむ♥)

(引っ張りキス：んむ…♥ あむ♥ んむ♥ あむ…んむ♥ あんん…んむ♥)」

左手であごを掴み、舌を絡めたり、ねじこんだり、ほじくったり、いろんなキス。

「(舌絡める：くちゆくちゅ♥ ちゅぐっ♥ ちゅるちゅう♥ れりよれりゅ♥)
(舌ねじこむ&ほじくる：れりゆりゅ♥ レりゆりりゅ♥ れりゆん♥ れれりゅ♥ れ
ろお♥)」

そのまま、唾液の交換を開始。

「(唾液交換：うんじゅる♥ んく♥ んくっ♥ じゅる♥ じゅるるっ♥)」

アキくんの口を犯しまくるエロすぎる下品な舌交尾。

「アキくうん。(んじゅっ♥ ちゅっ♥)
わたし…(ちゅう♥)ガマンできなく…(ちゅううっ♥) なっちやっ…た…♥)」

アキくんを横抱き。
控えめなおっぱいを押し付ける。

「(囁き) しょ…アキくん♥ (耳舐め：れろん)」

耳をひと舐めしてから体を離すと、ジップパーカーとミニスカを秒でパージ。

(脱衣)

「よいつしょ♥)」

ピンクの下着姿でアキくんのお腹の上にまたがる。
すると、後ろからお尻をツンツン。オチンチンがノックしてくる。

「急かされてるっ。
そんなしたいんだ…？」

アキくんは真剣な顔で大きく肯定。

「かわいい♥
いいよ。
てか…。
わたしも…アキくんとエッチしたいっ♥)」

アキくんの手を取って、ごろん。(SE)
見つめ合ったまま横になる。
下から手をのぼし、オチンチンに触れる。

「バッキバキ♥」

初めて触る生オチンチンに感動。

「かぶってるけど…硬あ…♥
熱くってヤケドしそ…♥」

たどたどしい手つきでたくましい肉棒を撫でさする。

(撫でる)

「生オチンチン…どんどん硬くなるっ♥
チンコ♪
チンポ♪
オチンチン♪
アキくん…わたしも……脱がせて♥」

撫でさすりながら、脱衣をおねだり。
アキくんは鼻息荒くパンツのウエストゴムを掴んでくる。
次の瞬間、お尻がふわっと浮き上がり、(脱衣)
気がつけば足首でプラプラしているおパンツ様。

「うっそ…っ?!」

脱衣のプロさに驚いて手を離すと、わたしの脚を左右にフルオープン。
身体をぐいとねじ込んでくる。

「ア、アキくんっ…!?!」

脚を閉じれなくなり、焦る。
ワタワタするわたしに、焼けた鉄の棒のようになった肉棒をオマンコにピタリ。

「あづっ！」

手で触れた時とはまた違う感触に、体がくねる。

「手で触ったときより熱いかも…っ。
あ…!
コンドーム…。
生でしたらできちゃう。
赤ちゃん…♥ アキくんとの子供…っ♥♥」

頭の中に未来予想図が浮かんで悶える。

「…え？ してる!？」

顔を上げると、確かに帽子をかぶっているオチンチン。

「はえ〜…。
手慣れすぎ…っ。

…初めてじゃない？
アキくん童貞じゃないのっ?!
え〜…。
わたしの知らない間に…ヤリチン??

(性器接触)

あっ。
えっ。
ちょっ!
オチンチンっ入ってくるっ?!」

(挿入)

ゴム越しでも熱い肉の棒がぴっちり閉じている大陰唇をかき分け、
蜜まみれの肉穴をジリジリ突き進んでくる。

(侵入)

「入る…っ。
わたし、エッチしちゃう♥
大好きなアキくんと…初エッチ♥

(破瓜)

あっ♥ あああっ♥♥」

膣内は初めてのオチンチンを歓迎。
破瓜の痛みは快樂物質が上書き。

「んっ♥ あっ♥ 痛くな…っ♥」

じっくり時間をかけて、ついに根元まで挿入。
圧倒的な挿入感にとろける。

「う、嬉しっ♥
アキくん…処女あげれて…本当に、幸せっ♥♥」

膣内はアキくんのオチンチンを大歓迎。
カタチを記憶しようと全力でうねうね絡みまくる。

「あんっ♥ きも…っち♥」

勝手に声が出る。
オチンチンがカリ首あたりまで引き抜かれ、すかさずどちゅん。突き刺さる。

「はあああんっ♥」

熱い棒が勢いよく打ち込まれ、頭の中に星が飛ぶ。

「はあ♥ あああんっ♥ ひゃん…♥」

数往復で、トロットロの発情モード。
アキくんの腰を脚で挟み、絡めて離さない。
だいしゅきホールド。

「アキくんしゅきっ♥」

顔と顔がド接近。
当然キス。濃厚キス。

(抽送 SE)

「(喘ぎながら&キスしながら)
ああひあ♥ んっふっ♥ あ♥ ちゅぶ♥ あっ♥ ああっ♥ あむっ♥
チンチンきもちっ!! くちゅ♥ キスもきもちっ♥ はむ♥ あむ♥ ちゅう♥
じゅるう♥ えろれろおっ♥」

舌を絡ませながらのラブラブ密着セックス。
さっきまで処女だったのがウソのような乱れっぷり。

「(喘ぎながら&口腔を貪りながら)
ああっ♥ ちゅ…っば♥ ああん♥ あっ♥ れろれろ♥ あ、はあんっ♥ じゅるる♥」

お互いキスしながらのセックス最高で最強。
頭の中もオマンコもぐちゅぐちゅハッピー&ヘヴン。
アキくんとの交尾ハマる。

「(喘ぎながら) んンン♥ ああ` ン` ッ♥」

チンポが動かなくなるくらい締め付ける。超ハマる。
とたんにうめくアキくん。

「かわいっ♥
もしかして…イクの?♥
いいよお♥ お姉ちゃんにイッて…っ♥」

リクに答え、思いつき腰を振り始めるアキくん。

(抽送：速)

「んほおっ♥
激しっ♥
あ` っ♥ おっ♥ あ` あっ♥ あん♥ あっ♥ ああ♥
ああっ♥ あ〜〜……イク…っ♥

お姉ちゃんもイキそ…っ♥
ふっぐうう♥ 弟にイカされる…っ♥

お` ほっ♥ あ` あ` っ♥

イグっ!♥ あ` っあ…♥
イグううっ!!♥ お` ほお` おお…っ♥
アキくんもっイッてっ!! お姉ちゃんと一緒に…っ!!♥♥」

(2nd 射精)

「あ` ひ……っ♥」

はち切れそうなほど膨らんだ熱いチンポがわたしの奥の奥。
子宮とゴム一枚隔てたところで、力強くドクンドクン脈動する。
わたしの視界も真っ白にスパーク。
脳から快樂物質がどぼどぼ。アキくんの喘ぎ声以外をキャンセルング。

「はあ…っ♥ はあ…♥ はあん♥
アキくうんっ♥ も…っ♥ もっとしよ?♥

マンコにもっとパコパコしてっ??♥」

考えるより先におねだり。
本能がアキくんとの交尾を切望してやまない。
なのに、熱い肉棒が抜ける感触。

「(慌てる) ま (待) …っ!!」

慌てて顔を上げれば、アキくんはオチンチンからゴムを外して交換中。
ローテーブルに置かれたゴムはキチンと縛られてる。

「えらーい♥
すずちゃんのお兄さんと違ーう♥」

新しいゴムを着け終わったアキくんは、恥ずかしそうに耳打ちしてくる。

「…え。
バックからしたい??
アキくんのエッチ♥」

そう言いつつ、秒で四つん這い。
完璧すぎる女豹のポーズ。

(撫でる)

「(感じつつ) シ……っ♥」

アキくんにもぎ出しの背中を撫でられ、ゾクっ。
すぐに背中ブラホックが外され、(SE)
揺れないおっぱいと尖ったピンク色の乳首がこんにちわ。

「あ…」

すっと伸びてくるアキくんの手のひらにすっぽり。
乳首が擦れ、(SE)

「あゝっ♥」

気持ちよくてのけぞる。
さらに、どちゅん。(挿入)

「おひいっ♥」

チンポがマンコに突き刺さる。
すぐに引き抜かれ、もう一回、どちゅん。(SE)

「あひいっ♥」

次は抜かずに、どちゅどちゅ連打。

「(喘ぎつつ) あう♥ おふ♥ あうっ♥ おぶっ♥ あうん♥ おふうっ♥」

連打にイキかけたところで、ふたたび引き抜かれる。

「あえっ…?!」

戸惑うわたしのくびれを両手で掴み、勢いよく腰を打ちつける。

(挿入)「あひっ!!♥」

マンコの一番奥めがけて、容赦ない連打。

「おっ♥ ほっ♥ お`っ♥ お`ほっ♥ お`っ♥ お`おほっ♥」

スリムなお尻の肉が、ふるっと波打つ。
二人しかいないリビングに響き渡るエッチな声と卑猥な音。

「あ`っ♥ あ`っ♥ あ`っ♥ んあ`っ♥ お`あ`っ♥」

四つん這いがきつくなってラグに爪を立ててこらえる。
口から飛び出る舌の先端から、唾液がスプラッシュ。

(抽送：始)

「あ`~~っ♥ うう`~~~っ♥」

体を支えられなくなり、ラグに突っ伏す。
アキくんは離れない。
後ろから重なるように腰を振り続ける。

「おっチンチンっ!♥ きもちっ!♥
あ`っ♥ ひっ♥ お`っお`っお`っ♥
出てっ…入ってえっ…ぎもっぢい!!♥
チンポすごっ!♥ アキくんすごっ!!♥」

アキくんにあだのメスなのをわからされる。

「ダメっ♥ またイグっ♥
イグっ♥ イグイグイグっ!!♥ んっぎいいいっ!!♥」

(抽送：終)
(3rd 射精)

なにげにシンクロ。姉弟（きょうだい）仲良しオーガズム。

「あぐっ!?!♥
はあああつ……………！」

ゴム越しに弾ける白濁液。
それでも熱々すぎて膣ヒダがぎゅうぎゅう。
ザーメンを搾り取ろうと力強くまとわりつき、つながったままのアキくんをうめかせる。

「(整息しつつ) はあつ……はあつ…はあつ。
チンポ気持ちよすぎっ！」

…え？
マンコも気持ちよすぎ…？」

間髪入れず、口を挟んでくるアキくん。

「(照れつつ) マっ?!
もしかして……。
出しても出してもガチガチなの…わたしのせい…!?!」

思いつきり照れて顔を臥せる。

「(身悶えしつつ気づく)
…。
……っ。
ねえ…。
アキくん…。
中でおっきいままなんだけど…。
ぜんぜん、おやすみしないね…っ。

まだ……。
できるってこと？」

重なったまま、耳元で「イエス」。
天然ASMRにゾクリ。

「(照れつつ慌てる) ま、待った。
これ以上はラグが汚れちゃう。
絶対大変！ 怒られる！

(転がりながら立ち上がる)

一旦…シャワろっ。
アキくんは合図したら入ってきて…♥」

(早歩き)

× × ×

(浴室：エコー)
(浴室：扉)

「肌あつか…！」

浴室の鏡に映る自分の体に驚く。

「こんな……興奮してたんだ…っ。
あ。
わっ。
垂れてくる……………」

(シャワーヘッド：取る／シャワー：始)

内ももを伝ってくるマン汁にシャワーヘッドを向ける。

「こっちも興奮しすぎ……///
アキくんとエッチしたんだもん……。
そりゃ…こうなる。
けど…。
恥ずかしっ ///
」

シャワーの温水にも負けないくらい熱いアソコ。
洗い流そうとする指に力がこもり、にゅるっと深く滑り込んで違う動きを始める。

「(興奮しつつ) あっ♥
はあっ、はあっ、はあっ、はあんっ!♥」

ありえない早さで興奮が有頂天。
クラッとよろめき、壁にもたれかかる。

「あ……っ ///
もお…。
アキくん待ってるのに……っ ///」

視線をふらふら。鏡に映る自分の顔を二度見。

「顔…あつか…///」

思わず頬をぺたぺた。手ぐしで髪を整えながら苦笑い。

(扉：開)

「えっ……?
アキくん!?

…待てなかった??
もお…っ。
アキくんのエッチ」

(扉：閉)

「しょうがない。背中洗ったげる。
そっち向いて…っ」

「お～…♥
アキくんの背中～～なかなかたくましい。

左の肩からいくよ……。
熱く…ないよね…?

ゆ…っくり……右肩へ……。
そのまま、往復……。

…気持ちいい?
よかった。

次は背骨ー…。
なぞるように〜…。

上にー…。
下にー…。
いろいろ〜…。

ついでに〜お尻っ♥
割れ目を〜…こうっ！

あはっ。
ぷるぷるしておもしろー…い♥

足もするよー…。

まずはこっちー左の足っ♥
モモの裏から〜…。
ふくらはぎ〜…。

もちろん。
右足もっ。

よしっ。
あとは〜…っ。
ここっ…♥」

股間の下からシャワーを浴びせる。

軽く跳ねるアキくん。
元気すぎる勃起チンポがびよんびよん。

「初めてのチンポ洗い……！」

びよん。
ちんぽが跳ねる。

構わず、亀頭に当てる。
上から。
そのまま裏筋へ。

びよんびよん。
やっぱり跳ねる。

「踊ってるみたい (笑)」

構わず、続ける。

竿から。

玉袋まで。

小刻みに往復。

「…気持ちいい？

ふーん。

このまま続けたら…ワンチャン??

残念っ！

キレイになったからおしまい…♥」

茫然自失のアキくん。

「そんな顔しない (笑)。

次はアキくんの番」

苦笑しつつシャワーヘッドを渡す。

「(軽く煽る) わたしのカラダ…キレイにできる？」

軽く煽って白い背中を向ける。

(シャワー：左肩から)

「(かすかに感じる) もっと強くて…大丈夫っ」

遠慮気味のシャワーにダメ出し。

「(地味に感じる) あっ！ んん…」

すぐにエッチのように大胆シャワー。

「あ……っ。

んっ…ん～～……♥」

背中をパワーウォッシュでナワバリバトル。

「いい♥

それっ♥
いいっ♥」

力任せに見えて、ギリギリ加減が絶妙。

「(甘く感じる) あ～～……♥
きもち～～♥
んっ♥
ん～～っ♥
あ～～～っ♥
あっ♥

そだ。
脇も…♥」

腕を上げ、永久脱毛済の脇をさらす。

「? アキくん??」

背中を叩いてたシャワーがいきなり床をバシャバシャ。
拳動不審すぎて振り向こうとした瞬間、脇にスプラッシュ。

「あっ?!
ふああっ♥ ひやあん♥ ああっ♥ あひっ♥
くすぐっ、たあいつ♥」

打って変わって雑すぎるシャワー。
くすぐったがりのわたしは逃げるようにカラダをくねらせる。

「ひやあんっ♥」

背後から胸をグニユリ。
抱かれるように、ない乳を揉まれる。
ツンツン乳首も潰すようにグニグニ。

「あっ?!
まだシャワー…途ちゅっ」

言ってる側から、脇へのシャワー圧が消える。

「あひっ?!」

そのせいで気持ちいいが乳首に集中。
力が抜けた瞬間、股間に当たるシャワー。

「ん ああっ♥」

不意をつかれた刺激に、身体が跳ねる。

「あ あっ♥ はああんっ♥」

股間にエイム固定の狙い撃ち。
浴室に反響する喘ぎ声。
発情期のメス犬にも負けてない、媚々（こびこび）で甘々のメスボイス。

「あっ♥ はっ♥ はあっ♥ はあっ♥ はあっ♥」

さらに、うなじにキス。お尻には熱くて硬い感触。

「やん♥」

怒涛の攻めに足がよろける。
何かを掴もうと反射的に伸びた手は、チンポをギュッ。

(ギュ)

「あっ！」

それがチンポにクリティカル。
アキくんは声にならない声を上げ、腰をビククッと震わせる。

(4th 射精)

わたしに精液をぶちまけながら、仲良く倒れ込む。

(倒れる&シャワーヘッド落下)

白濁液まみれの自分に苦笑い。

「大丈夫……アキくん…？」

顔とチンポを見比べる。

「勃起してるから…大丈夫かな？」

てか…ちっちゃくなつたチンポ一度も見えない (笑)」

改めてチンポを見つめる。

「かぶってるから絶好調ってのも謎。
大人おちんちんのがカッコいいのに…」

竿を甘握り、皮を剥こうと引っ張ってみる。

「おっ」

途中ひっかかりを感じるも、そのままムキッ。
キレイなピンク色の亀頭がこんにちわ。

「わっ。
ほお～らあ。
コレだよコレえ。
アキくんのチンポって感じ！ イケチン♥」

嬉しそうに左手でシャワーヘッドを拾い上げる。

「カリ首が汚れやすいんだよねー…」

シャワーを当てながら、
右手の人差し指と親指で輪っかを作り、カリ首を軽くねじねじ。

「あっ。
ちよっ。
コラっ。
じっとしてっ。
もお～～。
ねじねじするたび、ビンビンっ跳ねるっ。
キレイにしてるのに、気持ちよくなっちゃって～ (笑)」

手を止め、シャワーを止める。

(終/シャワーヘッド：戻す)

「続きは……ベッドでしょ♥」

アキくんの手を取って立ち上がる。

(扉)

お互い全裸のまま、階段を駆け上がる。

(階段／ドア開)

わたしの部屋に入るやいなや、後ろから抱きついてくるアキくん。

「(いやそうでいやじゃない) あっ♡ ちょ♡」

右手で太もも。左手でお尻。
お預けを食らった分、激しい愛撫。

「(悦び) ひゃっ♡ ああん♡」

優しく撫でながら、思いっきり掴みあげる。
激しいだけじゃない緩急のある愛撫。

「はあんっ♡ あゝ あっ♡
あっ♡ はあっ♡ ふう♡ はあっ♡
うますぎい…♡
ひゃあゝ っはあんっ?!♡ これっダメなやつう!!♡」

アキくんのせいで、カラダと心がおかしくなる。

「(キス：っんちゅううっ)」

追撃のキス。
口の中を舌がグイグイくる。
歯列をこすり、内頬を撫で、舌に絡んでくる。

(舌絡む：ぴちやくちゆくちゆくちゆるりゆ)

「(大人のキスしながら&感じまくりながら)
だ、ダメえ。
こんなの…アキくんのオンナになっちゃうううっ♡
絶…対い…………アキくんなしで生きられなくなるうっ♡」

愛撫と大人のキスのダブルコンボでマンコがぷしぷし。
初めて経験する快感のせいでアクメしまくる。

「アキくん…ビッチすぎ…………っ♡♡

ひゃっ♥ あゝ あんっ♥ あゝ あんっ♥」

鬼のようにガン突き。

しかも、ひと突きごとにチンポの角度が微妙に違って効果ばつぐん。

「ぎっ♥ ぎもっぢっ!♥ ぎもっぢいよお♥」

気持ちよすぎて壁についた手に力が入らない。

「あゝっ♥ あっ♥ あゝっ♥ あっ♥ あゝっ♥ あゝ ーっ!!♥ あゝ ーっ!!♥」

アキくんは止まらない。

熱すぎるチンポがそれ以上に熱いトロマンコにドチュンドチュン突き刺さる。

アキくんの腰とわたしのお尻がぶつかるたび、尻肉がふるふる波打ち、結合部からは汁がプシャプシャ弾ける。

男を知ったばかりの媚肉はとっくに白旗。アクメがデフォルト。

「あゝっ♥ あっ♥ あゝっ♥ あっ♥ 気持ちっ…!

あっ♥ あゝっ♥ あっ♥ あゝっ♥ チンポめっちゃ気持ちいいっ……!!

あゝっ♥ あゝっ♥ あゝっ♥ あゝっ♥ あゝ ああっん!♥

アキっ♥ アキっ!♥ アギっっ!!♥

(昇天) アッ……ギィ~~~~~……ッ!!♥♥」

(全力：終)

(5th 射精)

「あゝっ! あっづ!!♥ ナカあっつううっ!!♥」

二人同時に海老反ってド派手に鬼イキ。

口は半開き。目の焦点はブレブレ。

しかも、なにげに中出し。

精液がナカに注がれる度、腰がビクビク。

「(夢うつつ) うううう…っ!! づッ……!♥ ふあっ♥ あゝ あああ♥」

アキくんは全部出そうと必死に腰を押し付ける。

「ふ～～…ふ～～…。

アキくう…ん。

今あ、着けてなかったよね……っ?!」

中出しの余韻と現実にとろけつつ、お説教。

「ダメって言ってたのに……っ。

ばかあ。

…。

んっ？

あっ！

ちよっ!？」

アキくんはつながったまま、わたしを持ち上げると後ろに倒れ込む。
抜かすの強制背面騎乗位。

「ひゃ……っ!？」 (SE)

急な移動に頭がクラッ。

アキくんは理解が追いつかないわたしのお尻を両手でホールド。

(がしっ)

「あうっ」

お尻の肉に指を食い込ませながら、力強くわたしのお尻を持ち上げる。

(ぐい)

「え……え……っ?!」

そこでようやく、自分を貫き続ける大人チンポに気づく。

「チンポっおやすみしてな……っ!？」

驚くわたしをよそに、アキくんはお尻ごとマンコをチンポに叩きつける。

(SE)

「ほあっ!?!♥」

まるでお腹に置いた石に貝を叩きつけるラッコ。

(ラッコ：始)

「(勝手に声が出る) あっ!♥」

「あっ♥ ああっ!!♥ これっ!♥ きもち!!♥」

ラッコムーブに味をしめ、何度も叩きつける。

「あんっ♥ ひえっ♥ あっ♥ はあっ♥ ひゃあん♥」

力任せにどちゃくそ叩きつけられ、マゾの扉が開き始める。

「ひゃんっ♥ あうっ♥ あんっ♥ ああっ♥
もっとな♥ アキくんっ♥ もっとな♥」

無意識におねだり。

しかも、腰がラッコムーブに完全シンクロ。気持ちいいを貪る。

「あっ♥ あんっ♥ あんっ!♥ ああ♥ あん♥ あっ♥ ああん♥ きもちいつ!!♥」

激しく叩きつけられるほど、グズグズの生膣はゴムなしチンポをがっちり啜えこんで離さない。

「きもっぢい〜♥ あ`っ♥ あ`んっ♥ あ`っ♥ あ`んっ♥
オマンコとろけるう♥
あ`っ♥ ああん♥ あんっ♥ あっ♥ ああっ♥ あん♥ あんっ♥
チンポでイクイグう♥
あ`っ♥ あん♥ あん♥ あ`っ♥ ひっ♥ お`っ♥ お`っ♥ お`っ♥ お`っ♥
♥」

エロ激しい腰の動きにアキくんは掴むのを放棄、ラッコからマグロに変身。

「あ` ああああっ♥ せつくすう♥ えっちっ♥ 交尾っ♥ きもちい!♥
交尾きもちっ!♥ 交尾きもちいつ!♥ アキとの交尾、きもっぢいつ!♥
イクっ♥ またイクっ!!♥
アキもイケっ! 一緒にイケっ…っ!!♥
あんっ! はあんっ♥ 出せっ♥! 出せっ!♥
ア—……ッ!!♥♥」

(ラッコ：終)

(6th 射精)

マグロのアキくんを乗り越なし、そのまま同時にフィニッシュ。
膣奥で感じる二回目の熱い衝撃。鬼アクメすぎて限界までのけぞる。

「お……っほ！♥」

息をするのも忘れ、アキくんの上から転がり落ちる。
チンポはぶるんと抜け、股間からはネバついたザーメンが書道家の筆のようにのたくりながら垂れまくる。

「(整息しつつ現実に戻ってくる) はあ…っ♥ はあっ♥ はあっ♥ はあ♥
やば…。
中出し…やばあ」

わたしは右手を股間に伸ばし、熱々マンコからこぼれる白濁液をすくう。

「わあ…。
ネバネバ…ドロドロすぎ。
絶対妊娠しちゃう…！」

(鼻で匂う：すんすん)
くさっ！

(指くわえる：ちゅっ)
うまっ！

(吸う：ぢゅ〜〜〜、ぢゅるるる、ぢゅ、ぢゅぢゅぢゅっぢゅるるうう、ちゅっば)

アキくんも舐める？

(一転ニヤニヤ) てか……。
舐めて？」

新しく精液をすくい直し、
首を横に振るアキくんの口に無理やり指を突っ込む。

(ズブリ)

「中に出した罰…っ。
キレイにしてね？ (笑)」

アキくんは嫌そうな顔をしつつ、ちゅばちゅば。

「(煽るように) おいし？」

ますます嫌そうにちゅばちゅば。

「(圧) おいしーよね？」

指をグイグイ押し込み、アキくんの舌をグニグニ。

「(言い聞かせるように) 舐めたら中出しホーダイとか勘違いしないでね？」

指を一気に引き抜く。

「でも…気持ちよかったのはガチ。

(キレイにさせた指を啜える) ちゅう…ハマるのも……ちゅっ、ちゅっぽ。

(口から指を離し) わかる。

二回出しちゃったし…。

あと何回出しても……同じ？」

モジモジしながら、お腹をさすさす。

「(開き直る) 今日だけだよアキくん！」

ウキウキでアキくんの手を取ると、ベッドへどーん。

(SE)

「きもちいい中出しセックス……。

いっぱいしよっ♥」

寝転んだアキくんをまたぎ、イキったチンポの真上で仁王立ち。

股間から精液混じりのエッチな汁が垂れ落ちる。

「あ…マンコのよだれ///」

(ポタポタ)

ポタポタ垂れるたび、チンポがびよんびよん。

「パブロフの犬マンコに、餌に群がる金魚チンポ… (笑)。

はあ…♥

マンコの奥がキュ…ってしてきた♥

アキくんも挿れたいよね？

ほらあ…♥」

腰を突き出し、マンコを見せつけるように立ちクパア。

トロ蜜がボタタタッ。(ボタタタ)
チンポにたっぷりコーティング。

「姉弟だから相性も完璧♥ 極上すぎるマンコだよ♥」

アキくんの腰が急に突き上がる。(ベッド軋み SE)
一回じゃなく、何度も腰が突き上がる。(ベッド軋み SE)

「あは♥ ガマンできないの??♥
何度も射精してるのに、元気すぎ……♥」

アキくんのお腹に座り、ブレイク。

(座る)

「落ち着こ♥」

ぐっしょり濡れそぼったチンポを握る。(SE)

「あっつ♥
はあ……………挿れるよ?♥」

腰を浮かせ、エイムを合わせる。
トロ蜜の泉に熱々の亀頭が触れた瞬間。

(バチッ)

快感の静電気が弾け力が抜ける。

「(弾ける) あっ!!♥」

そのまま、チンポを咥え込むようにぺたんこ座り。

(挿入)

根元まで一気にズブったチンポは子宮口にガツンと挨拶。
快感の電流が頭のとっぺんまで突き抜ける。

「ひゃはあんンンっ?!」

即イキ大絶叫。

(7th 射精)

アキくんもなかよく一突きで絶頂。

「(感じつつ) へあ……♥
びっくりした……………。
今の……気持ちよすぎ…っ♥」

お互いの腰がガクガしてブルブル。
余韻に震える。

「…マンコキすごかった？」

わたしもびっくり。
アキくん…こうされるの弱い？」

まだ震える腰でチンポをシコるように動かす。

「(感じつつ)
シコ、シコ。
あ♥ あ♥
シコ…シコ…。
あっ♥ あっ♥

どお？
気持ちいい？
シコ、シコっ。
おっ♥ おっ♥
シコ…シコ…っ。
おっ♥ おっ♥
わたしは気持ちいい！
アキくんのチンポ…膣肉でシコるの気持ちいい♥

チンポお…シコ…シコ♥
おっ♥ おっ♥
あふう…っ。
おっほっ♥ おっほおっ♥」

いつの間にか、速度があがる。
膣肉全体でチンポを味わおうと、垂直にバツンバツン。
杭を打つように腰を振る。

「(クレッシエンドで)

お` おっ♥ お` ほっ♥

お` おんっ♥ お` ほお♥

お` うっ♥ お` おうっ♥」

薄暗くなってきた部屋の中で電気をつけずに全力交尾。

今日破瓜したとは思えない腰つき。

(杭打ち騎乗位：始)

「お` っ♥ お` っ♥ お` っ♥ お` おっ♥ お` あっ♥ いいっ♥」

泡立った本気汁が結合部でふしゃふしゃ。

「(夢うつつ)

ひああっ♥ お` っ♥ お` っ♥

先っぽお。奥にどちゅんっ。

しゅごっ♥ お` っ♥ お` っ♥ お` ほっ♥

どちゅどちゅ当たってぎもちっ♥

お姉ちゃんいっぱい気持ちいいっ!!

ありがと♥

ありがとっ♥

ありがとおっ♥

このチンポ好き♥

アキのチンポ好き♥

アキもいっぱい気持ちよくなってえ!!」

颯爽とアキを乗りこなす。

「あっ♥ あっ♥ あっ♥

チンポしゅき♥

マンコきもちっ♥

アキチンポのせいでエッチなお姉ちゃんになるっ♥

あっ♥ あっ♥ あっ♥

エッチなお姉ちゃんはしゅき?

あっ♥ あっ♥ ああっ♥

お姉ちゃんっイギユっ!!♥

アキチンポでまたイギユっ!!♥」

視界が真っ白。チカチカ星が飛びまくる。

「(ぶつとぶ) お` っ♥ お` ほっ♥ お` おっ♥ お` っほおっ♥♥」

オホ声と同時にイキ潮ぶっぱ。(SE)

遅れてアキも白濁液を子宮の中にぶちまける。

(杭打ち騎乗位：休)

(8th 射精)

「(余韻に蕩ける) お` うっ♥
なっかあ♥ 出てりゅっ♥
はあ♥ はあっ♥ はあ` っ♥」

イッて中に出されて、
膣肉はうねうね。膣ヒダはちゅうちゅう。
勝手にチンポを絞り上げる。

「アキの声すごっ。
気持ちい〜のっ??
へえ。
ならっ。
わたしもコクっ。
もっとマンコキっ♥

(杭打ち騎乗位：再)

(クレッシェンドで)

あ` っ♥
あ` っ♥ あ` っ♥ あ` あっ♥
マンコキっ気持ちっ! アキチンポきもちいつ♥」

さっきよりも激しいマンコキ。
エロく卑猥にアキを乗り越なす。

「あ` っ♥ あ` っ♥ あ` あんっ♥
あ` あっ♥ あ` あっ♥ あ` あんっ♥
またイっちゃっ!
ひうっ♥ あ` っ♥ うう♥ あ` あっ♥
お` っ♥ お` おっ♥ あ` っ♥ お` ほっ♥ お` ほっ♥ お` おっ♥♥♥」

ゴリゴリのマンコキにアキチンポは暴発。

(9th 射精)

「(余韻に壊れる)

お`ほっ♡

ナカっきたっ♡

あ`っ♡ ああっ♡

(杭打ち騎乗位：休)

きてりゅっ♡ アキのせーし♡ 奥っ!!♡

あ`んっ♡ あ`っ♡ あ`あんっ♡

濃い〜のっ、ビュルビュルしてりゅっ♡

ふああっ……お姉ちゃんの子宮…アキ専用のザーメンタンクうう♡」

絶叫しながら、アキの胸に崩れ落ちる。

頬と胸を押しつけながら、乱れた息を整える。

(整息) はあ……はあ……はあ。

(余韻にたゆたう) あ〜…♡

アキの顔…とろっとろ。

ヨダレ垂れてる〜〜かわいい〜♡

舐めたげる♡

(ヨダレを舐めつつキス) じゆる、ちゅう♡

ぢゆる……う♡ んちゅ……♡ じゆるるる……っ♡

(唇離す) ふっはあ♡

腰も…動いちゃう♡ ちゅう♡

グズグズに柔らかくトロけたマンコが…んちゅ♡

丁寧に…マンコキ♡ ちゅ♡

アキチンポお…ちゅ♡

一生お姉ちゃんのマコの中にい監禁したあ…い♡」

ド変態宣言からの本気交尾。

チンポを千切る勢いでギチギチに締め付け、奥のほうで亀頭を強くバキューム。

性器の粘膜が擦れるたび、ワケわからんくらい気持ちいい。

(杭打ち騎乗位：再)

「(激しく) はー…っ♡ あ`っ♡ はあん♡ きもち♡ っ…♡

あ`っ♡ あ`ー…♡ あんっ♡ ああ`っ♡

はっ♡ ひっ♡ はっ♡ ひうっ♡ はー…っ♡ ひっ♡

っ♡ それ、しゅごっ♡ しゅごっ♡

らめ♡ それりやめ♡ あっ♡ あっ♡ あっ♡ ん`っ♡ んっ♡ ん`っ♡

あっ♡ あ`っ♡ はあっ♡ んっ♡ ん`っ♡

お`っ♡ お`っ♡ お`っ♡ お`っ♡ お`ほっ♡

あゝ あーッ♥ あっあっあっ♥ あゝ ああああつつ♥」

(10th 射精)

二人仲良くイキ散らかす。
身も心もおかしくなる病みつきの快感。
いつの間にかカラダを倒され、攻守交代。
騎乗位から正常位。

「ちょっ♥」

わたしはだいしゆきホールドで迎え撃つ。

「アキっ!♥ アキ…っ!!♥
おっ♥ あゝ あっ♥ おっ ほっ♥ あゝ あっ♥
やっ♥ はげしっ♥ あゝ あっ♥ あゝ つうううっ♥
あっ♥ あゝ …っ♥ ひあ…っ♥
もっとすりゅっ♥ めちゃくちゃセックスする…っ♥
アキのチンポなしで生きてけな…っ♥」

時間を忘れてエンドレス交尾。
太陽はとっくに沈み、暗くなった部屋の中で、ひたすら絶頂の快感にどっぷりひたる。

(フェード・アウト)
(夜環境音+漏れる喘ぎ声)

そうして、部屋がオスとメスの匂いで充満しきった頃、
わたしは何十度目かのアクメでついに意識がぶっ飛ぶ。

「ああっ!!♥♥」

同じくアキも打ち止めイキ疲れ。
電池が切れたみたいにカクン。
結果、ベッドの上で繋がったまま…朝までぐっすり。

(朝環境音)

一日が終わり、自己催眠が解け、わたしの認識も元通り。
わたしの背中にくっつくように寝ているアキがお兄さんだったのを思い出す。

「お兄さん……！」

わたしは身体を起こすと、ぬるんとおちんちんが抜ける。

「あん……」

粘り気を増した精液が、ありえないくらい溢れ出し、ベッドにぼとぼとどぼどぼ流れ落ちる。

(ぼたたた)

「わわっ」

交尾の跡がひどいベッドから飛び降りる。

(降りる)

部屋にある姿見を覗いてびっくり。

「うわ……………あ」

体中に無数のキスマーク。歯型。乾いてカピカピの唾液跡。

内ももを伝うドロドロの精液。

交尾の跡を直視して鬼照れ。

「(ウツリしながら) 中出し……………最高すぎた……………♥」

子宮のあたりを手で押さえながら、まだ寝てるお兄さんを見つめる。

「絶対、またアキになってもらいますよ♥」